

Hayakawa Hiroshi

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に「介護人財創造塾」(高井書房)、「介護保険改正に勝つ!経営」(年友企画)、「データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望」(日本医療企画)、「介護事業の羅針盤」(シルバー新報叢書)など。  
http://www.hayakawa-planning.com  
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

## 介護マネジメント型 経営(継承)のツボ

### いんじゅんこそく 因循姑息

転期に立つ経営者の資質の考え方③

早川浩士

(有)ハヤカワプランニング代表取締役



#### 『この街で』

この街で生まれ この街で育ち  
この街で出会いましたあなたと この街で  
この街で恋し この街で結ばれ  
この街でお母さんになりました この街で  
あなたのすぐそばに いつもわたし  
わたしのすぐそばに いつもあなた  
この街でいつか おばあちゃんになりたい  
おじいちゃんになったあなたと 歩いてゆきたい  
坂の上に広がる 青い空  
白い雲がひとつ 浮かんでいる  
あの雲を追いかけ 夢を追いかけて  
喜びも悲しみもあなたと この街で  
この街でいつか おばあちゃんになりたい  
おじいちゃんになったあなたと 歩いてゆきたい  
この街でいつか おじいちゃんになりたい  
おばあちゃんになったあなたと 歩いてゆきたい  
いつまでも好きなあなたと 歩いてゆきたい

(JASRAC 出0902168-901)

「信じる 自分の 可能性」  
粋なことばが、眼に飛び込んできた。  
松山の市電に貼られたコピーである。  
2000年6月、市民による「松山21世紀委員会」が発足。  
新世紀100年のスタートにあたる01年は、俳人正岡子規没後100年。  
翌年、松山城築城400年の節目を迎えるにあたって、文化的、歴史的な風土を生かした「人づくり」・「ものづくり」・「ことづくり」による新たな街の活性化、にぎわい、文化づくりを創出することを目的としたイベント事業の一環として始めた「21世紀に残したいことば」

あなたのことばで元気になる「だから、ことば大募集」に寄せた作品の一つだ。  
この活動を通して「この街で」という歌も生まれた。

05年3月3日、社団法人日本ベンクラブ「平和の日・松山の集い」が開催。市役所ロビーに掲げられた、「恋し、結婚し、母になったこの街で、おばあちゃんになりたい!」(作:桂綾子/『だから、ことばの大募集』で市長賞を受賞)に感動した新井満が、三宮麻由子のピアノ伴奏にのせて即興で歌ったのである。

#### 売り手よし、買い手よし、世間よし

「介護の社会化」の喧伝とともに登場した介護保険。施行10年目を迎えたものの、

評価は必ずしも捗りしくな  
い。  
江戸時代に活躍した近江商人(現在の滋賀県)の商道徳の姿勢を表すことばとして、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の3つ

を合わせた「三方よし」がある。

商いは、売り手と買い手の売買当事者に限らず、取引自体が世間(社会)からも「よし」と認められなければならないという考え方(とらえ方)を示したもので、商いの精神として語り継がれている。歌が芽吹いた松山は、「街はことばのミュージアム」へと活動が根づいた。

他方、「介護の社会化」は、21世紀のわが国の超高齢社会を見据えた施策にもかかわらず、色あせた感が否めない。

介護報酬改定の足跡をたどれば、連続2回のマイナス改定から一転、総枠3%アップ(年約2300億円)分の財源を確保したプラス改定。しかしその内容をみれば、その場しのぎの「因循姑息なやり方」といわざるを得ず、10年、20年先の展望を拓(開、披、啓)く道のりは険しい。

「盤根錯節に遇わずんば、なんぞもつて利器を別たんや」である\*。

利器の利は、利己・私利として用いるものではなく、利他・他利のために。地域の地にこそ「地の利」があり、断じて「人の和」を欠いてはなるまい。

「介護の社会化とは何か?」を問い直すための「天の時」は今と、古則の智慧を奮い起すことが肝要である。

「因循姑息」の蔓延りが心配だ。